

コニカミノルタ株式会社
2016年度第3四半期

決算説明会

- 施策説明 - 代表執行役社長
- 業績説明 - 常務執行役

山名 昌衛
畑野 誠司

2017年1月31日

コニカミノルタ株式会社
2016年度第3四半期

決算説明会 - 業績説明 -

常務執行役 畑野 誠司

2017年1月31日

2016年度 第3四半期業績サマリー

【億円】		1Q	2Q	3Q	前年3Q比				9カ月 累計	前年同期比			
全社	売上高	2,291	2,328	2,377	△ 174	- 7%	75	+ 3%	6,996	△ 627	- 8%	216	+ 3%
	事業貢献利益	91	107	87	△ 56	- 39%	5	+ 4%	285	△ 157	- 36%	15	+ 3%
	営業利益	89	96	159	25	+ 19%	86	+ 65%	345	△ 71	- 17%	102	+ 24%
	当期利益*	64	69	117	25	+ 27%	-	-	249	△ 16	- 6%	-	-
情報機器	売上高	1,863	1,843	1,916	△ 153	- 7%	73	+ 4%	5,622	△ 539	- 9%	225	+ 4%
	事業貢献利益	132	134	120	△ 46	- 28%	11	+ 7%	386	△ 105	- 21%	52	+ 11%
	営業利益	133	128	120	△ 46	- 28%	11	+ 7%	381	△ 128	- 25%	30	+ 6%
為替 レート	USドル	108円	102円	109円	△ 12円	- 10%	-	-	107円	△ 15円	- 12%	-	-
	ユーロ	122円	114円	118円	△ 15円	- 11%	-	-	118円	△ 16円	- 12%	-	-

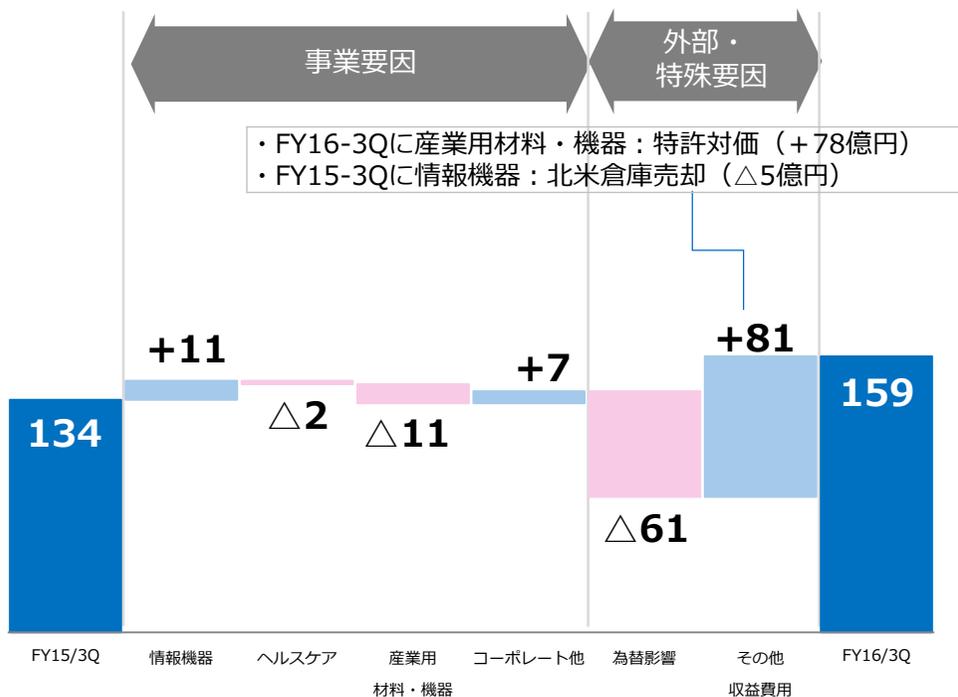
* 事業貢献利益：営業利益からその他収益費用を除いたもの。当期利益：親会社の所有者に帰属する当期利益（四半期利益）

- 円高影響で減収減益も、為替除けば「3Q」「9カ月累計」とも実質増収増益の決算。
売上高は、情報機器及びヘルスケア事業での主力製品販売増により為替除いて増収。
営業利益は、知財権価値の最大化を図る経営施策実行に伴い特許関連収入78億円を計上。
「3Q」「9カ月累計」とも為替影響・特許関連収入除いても実質増益。
- ・ 情報機器事業は、ハイブリッド販売・中高速カラーシフトにより為替除けば増収増益。
- ・ 産業用材料・機器事業は、主要製品販売減で減収も、特許関連収入を計上し増益確保。

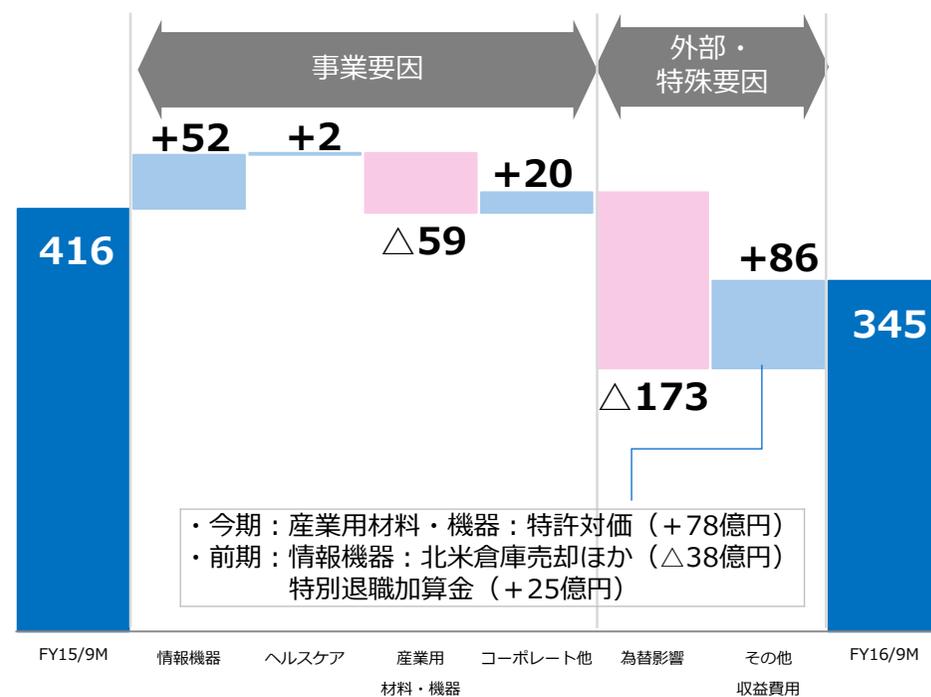
2016年度 3Q / 9ヵ月累計 営業利益・前年比実質増減

対前年増減率 (除く 為替影響・特殊要因)		1Q	2Q	3Q	9ヵ月 累計
全社	売上高	2 %	4 %	3 %	3 %
	営業利益	- 0 %	5 %	4 %	4 %
情報機器	売上高	3 %	4 %	4 %	4 %
	営業利益	17 %	9 %	7 %	10 %

3Q 対前年 (億円)



9ヵ月累計 対前年 (億円)



2016年度 第3四半期 セグメント別売上高・営業利益

【億円】

売上高	16年度 3Q 累計	15年度 3Q 累計	前年 同期比	16年度 3Q	15年度 3Q	前年 同期比
情報機器	5,622	6,161	- 9%	1,916	2,069	- 7%
オフィスサービス	4,073	4,506	- 10%	1,385	1,505	- 8%
商業・産業印刷	1,550	1,655	- 6%	531	564	- 6%
ヘルスケア	634	622	+ 2%	220	220	- 0%
産業用材料・機器	655	817	- 20%	214	255	- 16%
産業用光学システム	335	399	- 16%	107	128	- 17%
機能材料	320	418	- 23%	107	126	- 16%
コーポレート他	85	23	-	28	8	-
グループ全体	6,996	7,623	- 8%	2,377	2,551	- 7%

営業利益 (右側：営業利益率)	16年度 3Q 累計		15年度 3Q 累計		前年 同期比	16年度 3Q		15年度 3Q		前年 同期比
情報機器	381	6.8%	509	8.3%	- 25%	120	6.2%	165	8.0%	- 28%
オフィスサービス	294	7.2%	398	8.8%	- 26%	90	6.5%	123	8.2%	- 27%
商業・産業印刷	87	5.6%	111	6.7%	- 21%	29	5.5%	42	7.4%	- 30%
ヘルスケア	15	2.4%	23	3.7%	- 34%	3	1.2%	8	3.6%	- 67%
産業用材料・機器	144	22.0%	133	16.2%	+ 9%	97	45.5%	28	11.1%	+ 244%
コーポレート他	△ 196		△ 249	-	-	△ 60		△ 68	-	-
グループ全体	345	4.9%	416	5.5%	- 17%	159	6.7%	134	5.2%	+ 19%

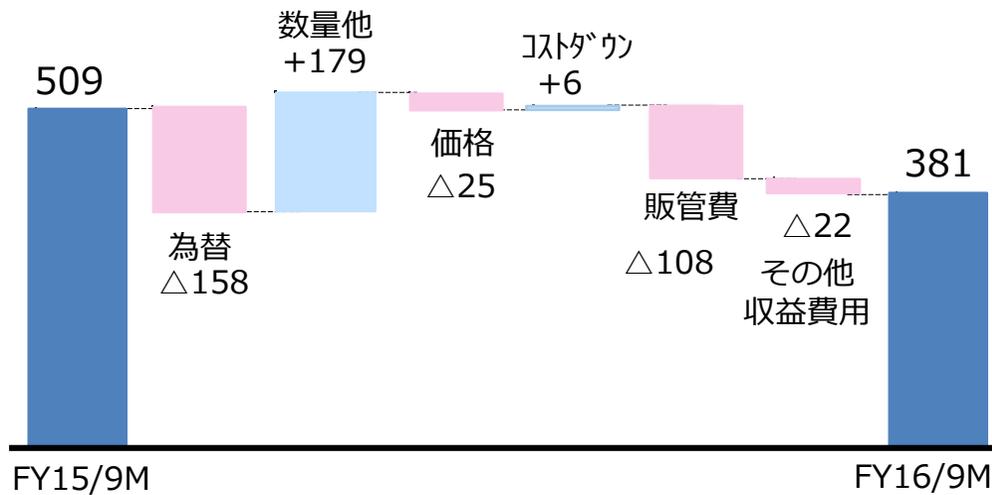
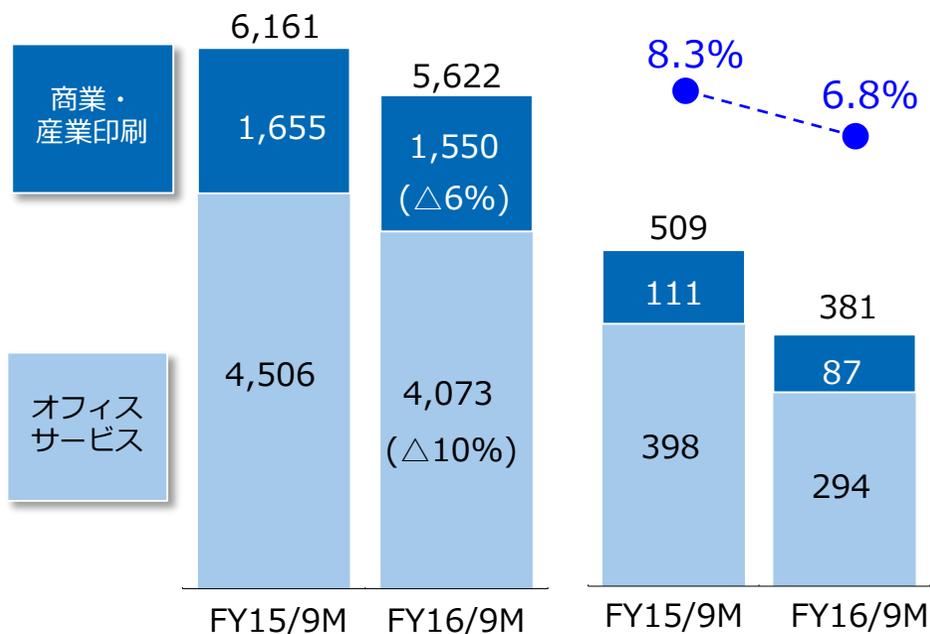
- 売上高： 5,622億円 9%減収 （為替影響：△764億円、除く為替：4%増収）
 - A3中高速カラー製品及び、PPカラー最上位機販売増により為替除けば増収。
- 営業利益： 381億円 25%減益 （為替影響：△158億円、除く為替：6%増益）
 - カラー上位製品の販売増による製品ミックス改善があり、為替を除けば実質増益。

売上高/営業利益

営業利益 対前年増減分析

左：売上高 右：営業利益 ●営業利益率 【億円】

【億円】



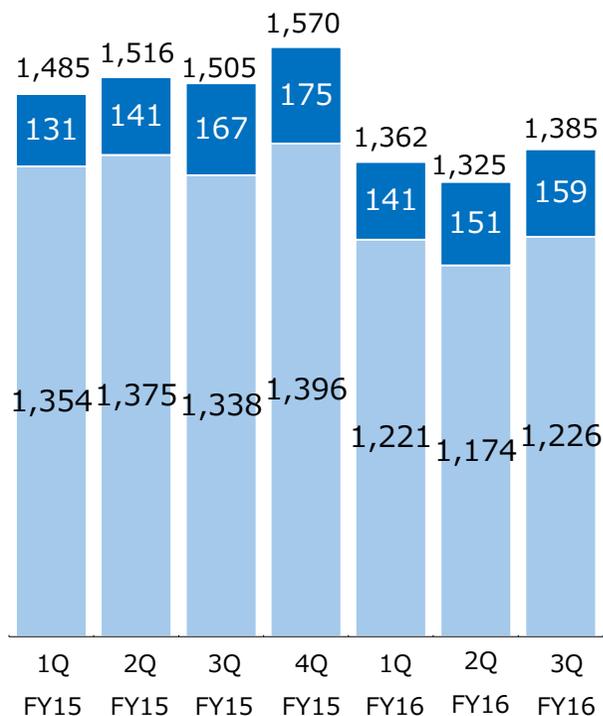
□ 売上高： 1,385億円 8%減収（為替影響：△157億円、除く為替：2%増収）

□ 営業利益： 90億円 27%減益（為替影響：△41億円、除く為替：7%増益）

▶ ハイブリッド販売によりA3カラーセグメント4*以上の販売が堅調。為替を除けば増収増益。

売上構成四半期推移

【億円】



ITサービス
ソリューション

オフィス
プロダクト

売上高

159億円

前年同期比 △5%
除く為替 6%増収

1,226億円

前年同期比 △8%
除く為替 2%増収

OPS 226億円
前年比△2%

GMA 73億円
前年比△6%

3Q 概況

✓ コンテンツマネジメントサービスの拡充により、米国で大型商談を受注。

✓ A3カラー機はセグメント4以上への販売シフトが加速。

✓ ドイツの世界的製薬会社より7年間の長期契約を受注。

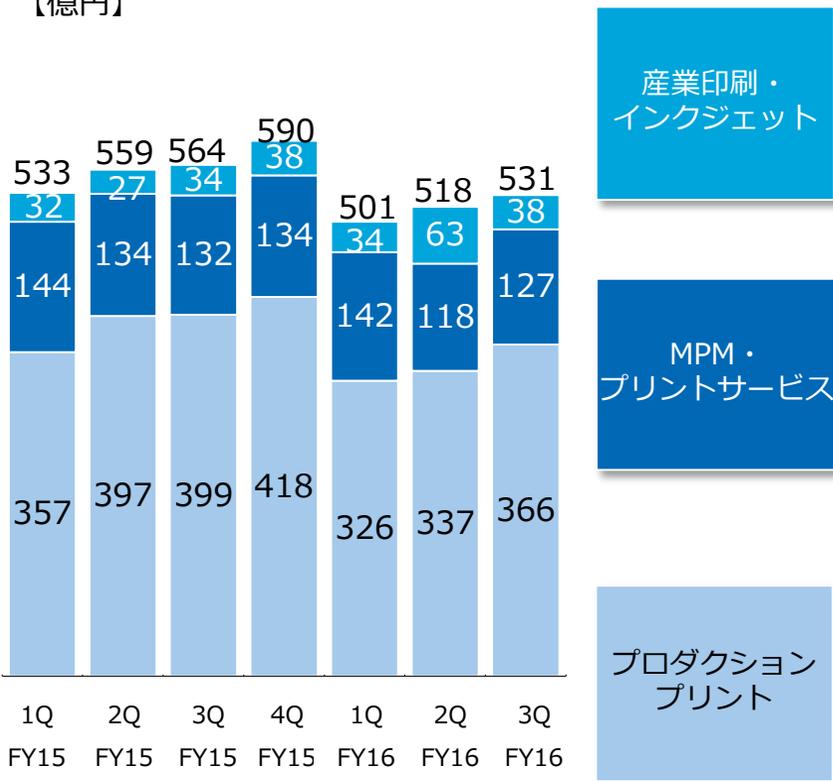
✓ 中国移動通信キャリア大手より新規案件を受注。

*セグメント4: 毎分45~69枚A4紙を印刷する出力機器
セグメント5: 毎分70~90枚A4紙を印刷する出力機器

- 売上高： 531億円 6%減収（為替影響： △69億円、除く為替： 6%増収）
- 営業利益： 29億円 30%減益（為替影響： △16億円、除く為替： 7%増益）
- カラー最上位機とモノクロ機の販売が堅調。為替除けば実質増収増益。

売上構成四半期推移

【億円】



売上高

38億円

前年同期比 +13%
除く為替 24%増収

- ✓ テキスタイル「ナッセンジャーSP-1」がフランス/トルコで受注、売上拡大に貢献。
- ✓ インクジェットデジタル印刷機「KM-1」の顧客への設置がスタート。

127億円

前年同期比 △4%
除く為替 12%増収

- ✓ 欧州顧客向け売上増。

366億円

前年同期比 △8%
除く為替 3%増収

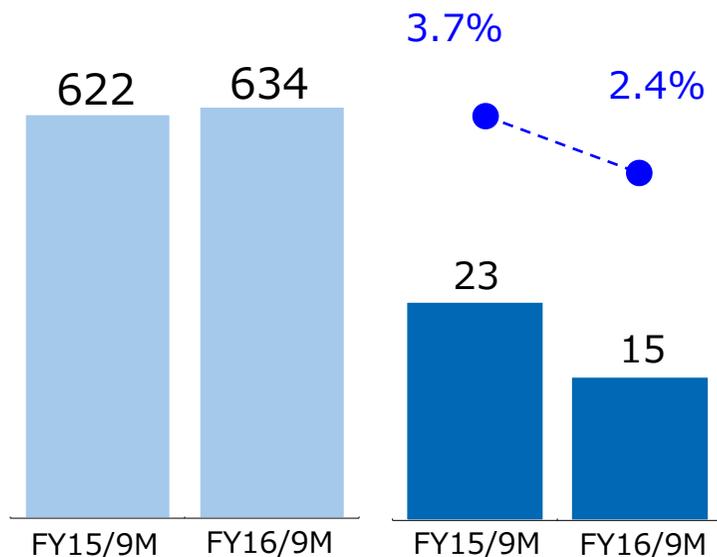
- ✓ カラー最上位機「bizhub PRESS C1100」は北米・中国等を中心に販売増。
- ✓ 「bizhub Pro1100」が米国教育機関やメキシコ法務省より大口案件を獲得。

ヘルスケア事業： 第3四半期総括（累計）

- 売上高： 634億円 2%増収（為替影響：△47億円、除く為替：9%増収）
- 営業利益： 15億円 34%減益（為替影響：△16億円、除く為替：35%増益）
- DR、超音波診断装置は販売堅調、米国プライマリケア市場は前年買収したViztek社寄与で売上拡大。

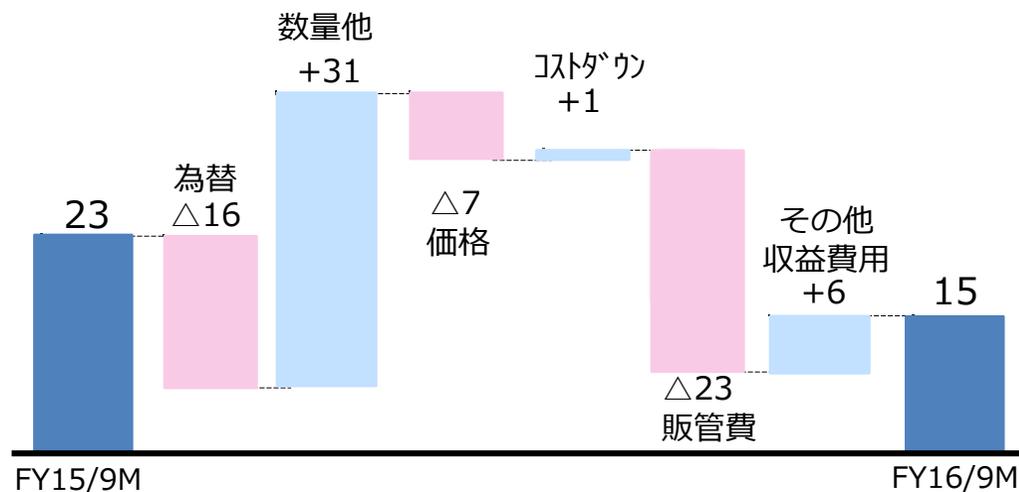
売上高/営業利益

左：売上高 右：営業利益 ●営業利益率 【億円】



営業利益 対前年増減分析

【億円】

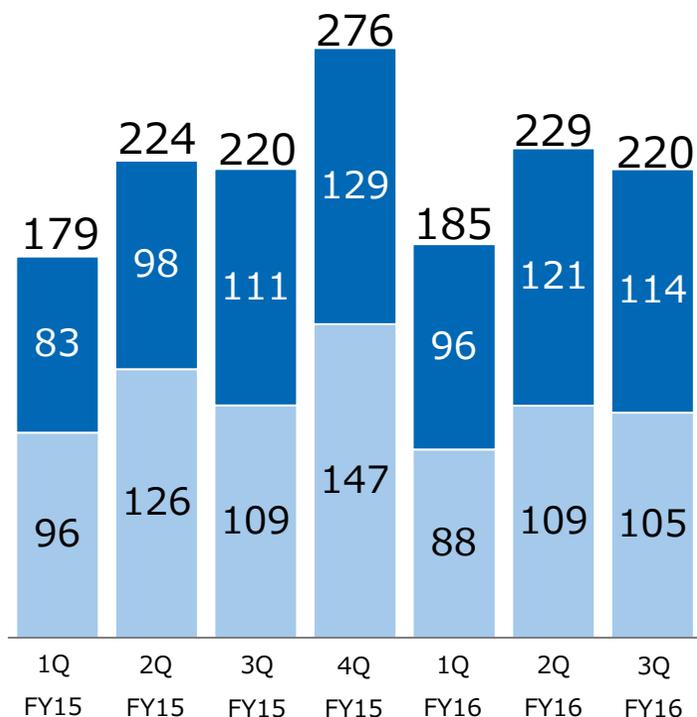


ヘルスケア事業の状況（第3四半期）

- 売上高： 220億円 0%減収（為替影響：△14億円、除く為替：6%増収）
- 営業利益： 3億円 67%減益（為替影響：△5億円、除く為替：6%減益）

売上構成四半期推移

【億円】



売上高

114億円
前年同期比 +3%

デジタル

3Q 概況

- ✓ DRは日・米で新製品の販売を開始。日・米・中販売増加。米は外部企業との協業で販売大幅増加。
 - ✓ 超音波診断装置は、日本は好調継続、中国は販売開始。高画質プローブを搭載した新バージョンを導入。
 - ✓ 医療ITは、ネットサービス事業拡大。PACSは上位機種となる病院向け新製品の発売を開始。
 - ✓ CRは、米国診療報酬制度改正の影響を受け、販売数量減少。
-
- ✓ デジタルシフトの中、フィルムを中心としたアナログは減収。

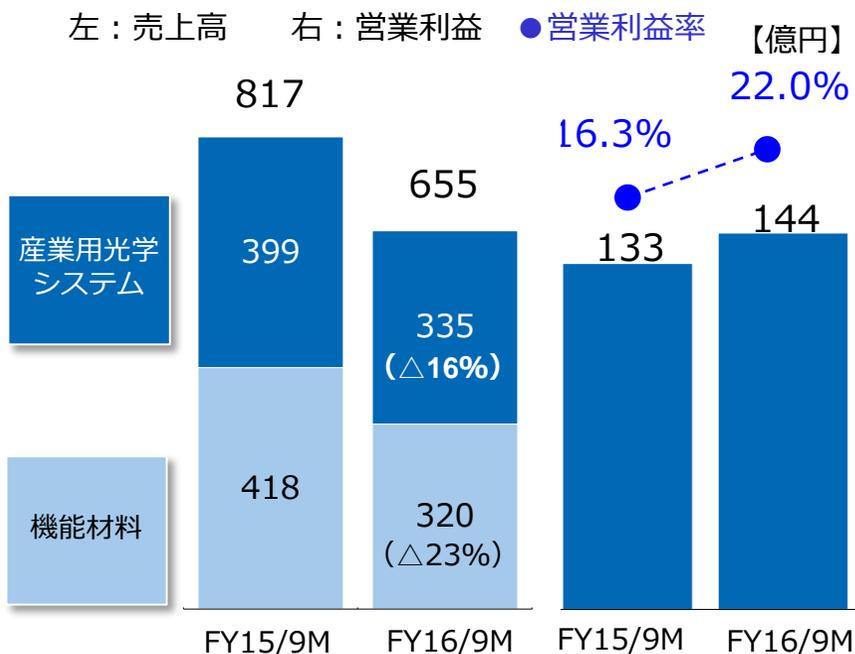
アナログ・その他

105億円
前年同期比 △3%

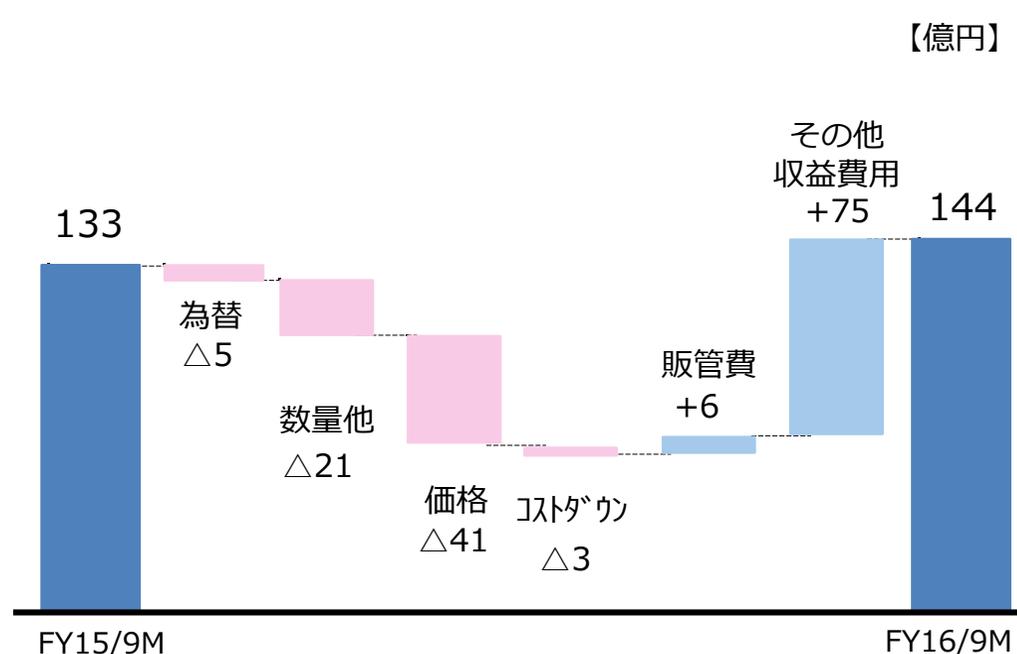
※ デジタル：X線撮影装置(DR,CR)、超音波診断装置、医療ITなど。
アナログ・その他：フィルム、イメージャー、仕入れ商材、など。

- **売上高：** 655億円 20%減収（為替影響：△32億円、除く為替：16%減収）
 - 産業用光学システムは産業・プロ用レンズ市場需要減、計測機器は大口案件が4Q以降にずれ込む。
 - 機能材料は、TACフィルムが価格圧力の中、高付加価値製品集中により、減収傾向が続く。
- **営業利益：** 144億円 9%増益（為替影響：△5億円、除く為替：12%増益）
 - 両分野での販売減少、価格低下の影響を受けるも、特許関連収入で補い増益。

売上高/営業利益



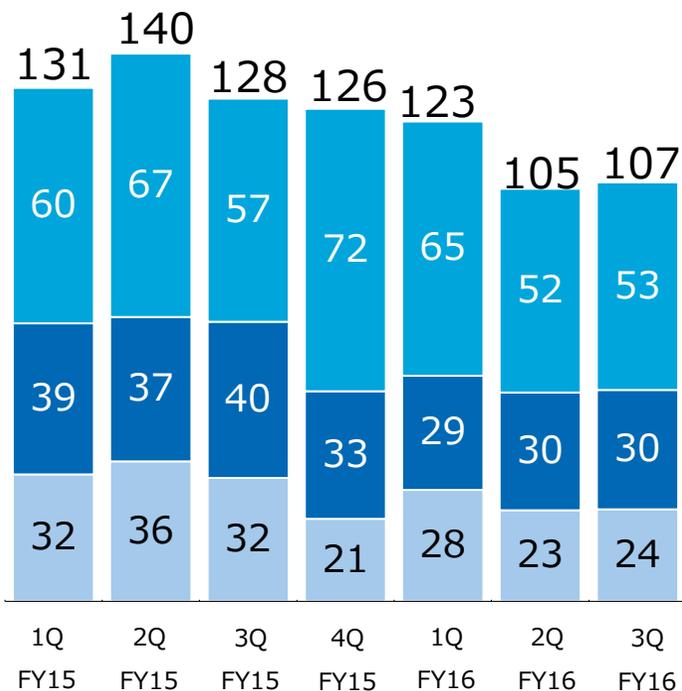
営業利益 対前年増減分析



□ 売上高： 107億円 17%減収（為替影響：△10億円、除く為替：9%減収）

売上構成四半期推移

【億円】



売上高

3Q 概況

計測機器

53億円

前年同期比△7%

- ✓ ディスプレイ測定装置が販売堅調。
- ✓ 大型案件は、4Q・来期へずれ込む。

産業・プロ用
レンズ

30億円

前年同期比 △24%

- ✓ 最終製品市場の需要減速により減収。

その他

24億円

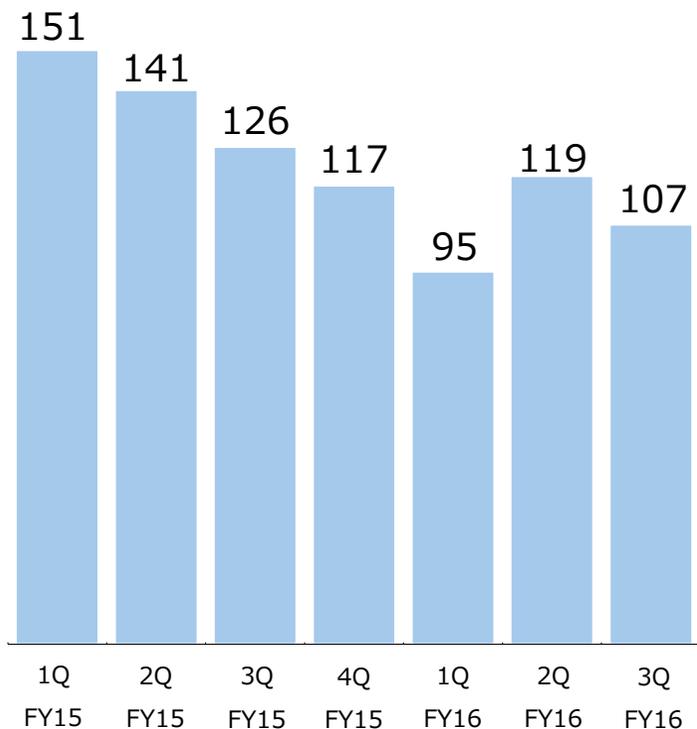
前年同期比 △25%

- ✓ コンパクトカメラ市場縮小に伴い減収。

□ 売上高： 107億円 16%減収（為替影響：△0億円）

売上構成四半期推移

【億円】



主な製品

■ FPD向けフィルム

- ・ 大型パネル用
- ・ 中小型パネル用

■ その他

- ・ ウィンドウフィルム
- ・ バリアフィルム
- ・ プレシジョンフォトプレート
- ・ 素材

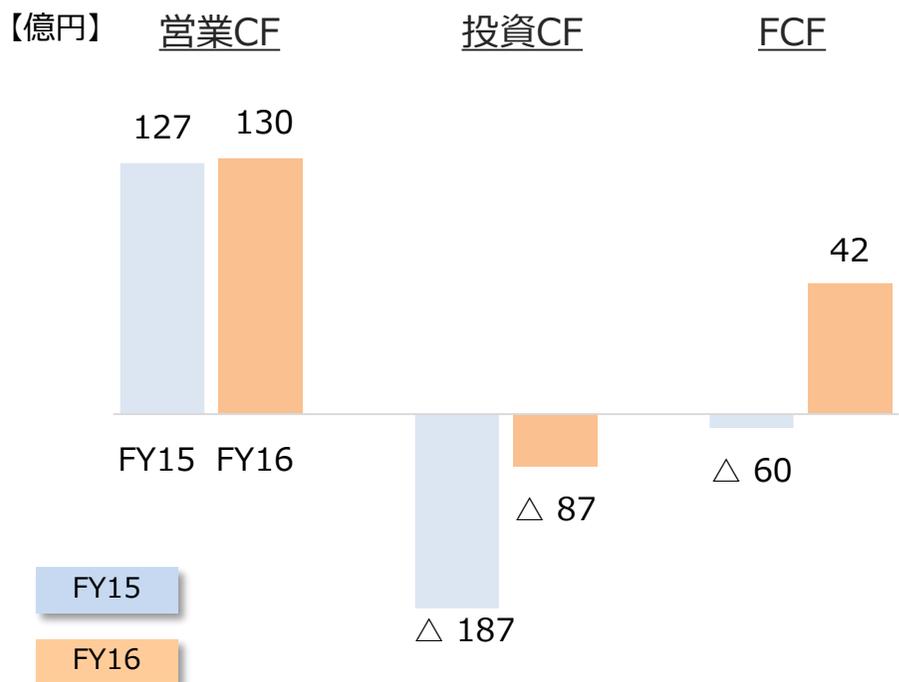
3Q 概況

- ✓ 価格圧力が激化する中、高付加価値製品に集中した結果前年比で減収。
- ✓ 大型テレビ向けは、IPSパネル用ZeroTAC、新VA-TACが2Qに続き堅調。
- ✓ 中小型パネル向けは、超薄膜フィルムが2Qから伸長。

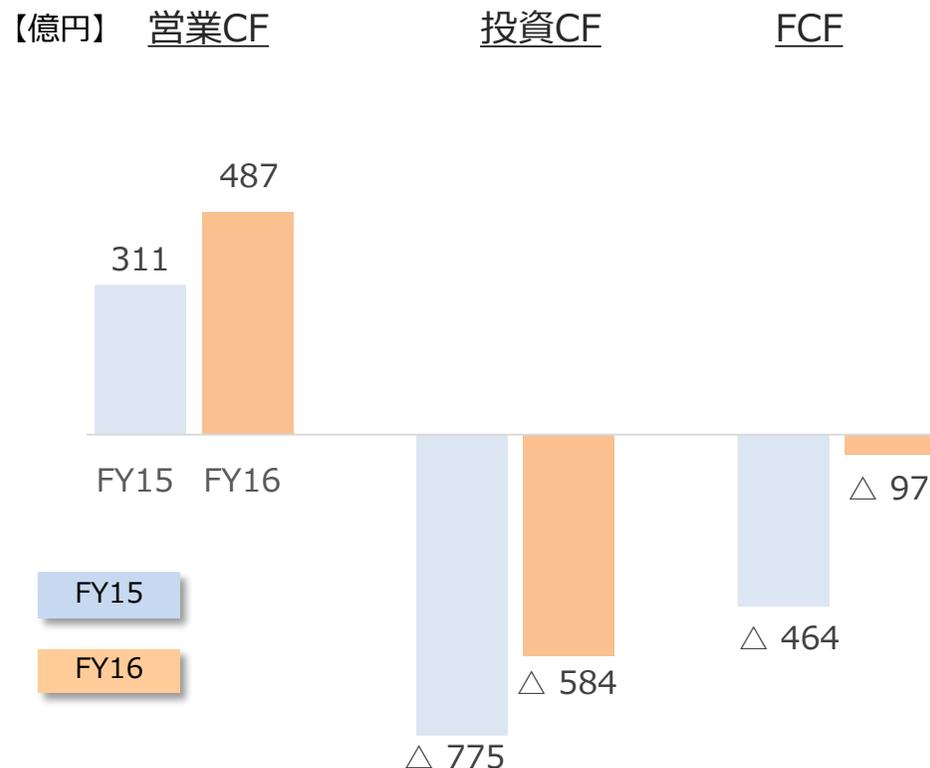
フリーキャッシュフロー（FCF）は改善傾向を継続

運転資本改善による営業CF増に加え、投資減によりFCFは102億円(3Q)/367億円(9ヵ月)改善。

3Q比較



9ヵ月比較



【億円】

		16年度予想	15年度実績	増減
売上高		10,300	10,317	- 0 %
営業利益		550	601	- 8 %
当期利益		360	320	+ 13 %
為替レート	USドル	110円	120.14円	-
	ユーロ	115円	132.58円	-

為替前提：[ドル=110円、ユーロ=115円]とする。

業績予想：前回予想を据え置き、当期利益13%増益にこだわる。

配当予想：年間配当:30円/1株（中間:15円を実施、期末:15円）を据え置く。

情報機器

オフィス
サービス

商業・
産業印刷

- ・ **成約済み大口案件の確実な収益貢献**
- ・ 更なる生産・調達コストダウンの実行
- ・ サービス原価・販売管理費低減

- ・ **ハイブリッド販売、付加価値型アプローチの徹底**
- ・ 価格コントロールの成果出し
- ・ A3カラー中高速機(Seg4/5)によるプリントボリューム増大

- ・ **新製品「C2070」、「C1100」等カラーPP機重点販売**
- ・ MGI商材(JET Varnish)の顧客開拓拡大

ヘルスケア

- ・ **最大需要期にデジタル3本柱（DR、超音波、医療IT）を核に事業収益最大化**
 - ・ DR： 協業展開強化、新製品の拡販
 - ・ 超音波診断：日本は整形から内科へ水平展開。海外は、米・中を中心とした販売増
 - ・ 医療IT： Viztek プライマリケア向けソリューション案件の確実な収益化

計測機器

- ・ **大口案件の確実な出荷、4Q収益への貢献**
- ・ Instrument Systems、Radiantは、進行中プロジェクトの確実な取り込み

機能材料

- ・ **戦略製品(超薄膜、QWP、新VA-TAC、IPS用ZeroTAC)の拡販**
- ・ 外部リソースも活用、販売拡大に対応した供給能力を確保

コニカミノルタ株式会社
2016年度第3四半期

決算説明会 - 施策説明 -

代表執行役社長 山名 昌衛

2017年1月31日

特許権実施許諾による知財価値最大化

内容

- 携帯端末向けマイクロレンズ分野における当社特許権につき実施許諾契約を締結。（2016年12月31日）
- 対価として特許関連収入78億円を3Q収益に計上

経緯・背景

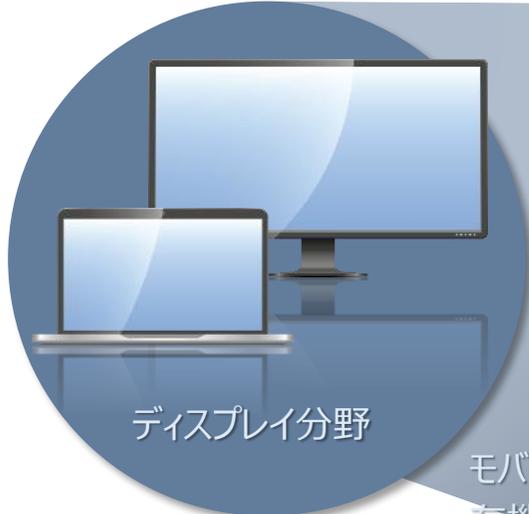
- 当社は、最終製品市場における需要変動・価格変動が激しいデジタル家電製品向けの光学事業は縮小し、大型プロジェクトなど産業用・プロ用市場へのシフトを進めた。
- 2014年には携帯端末用レンズユニット事業の縮小を決定、生産関連の一部資産を外部企業に売却。

狙い

- 携帯端末用レンズ事業は縮小する中で、当社が保有する知財価値の最大化を図り、収益に寄与させる経営施策。
- 当該特許は車載向けをはじめ、産業用光学システム分野での事業拡大に活用。

有機EL照明事業の強化について

モバイル/IoT分野への 高性能フィルム



ディスプレイ分野



モバイル用偏光サングラス対応フィルム
有機ELディスプレイ用反射防止フィルム



フレキシブル
デバイス



フレキシブルセンサー

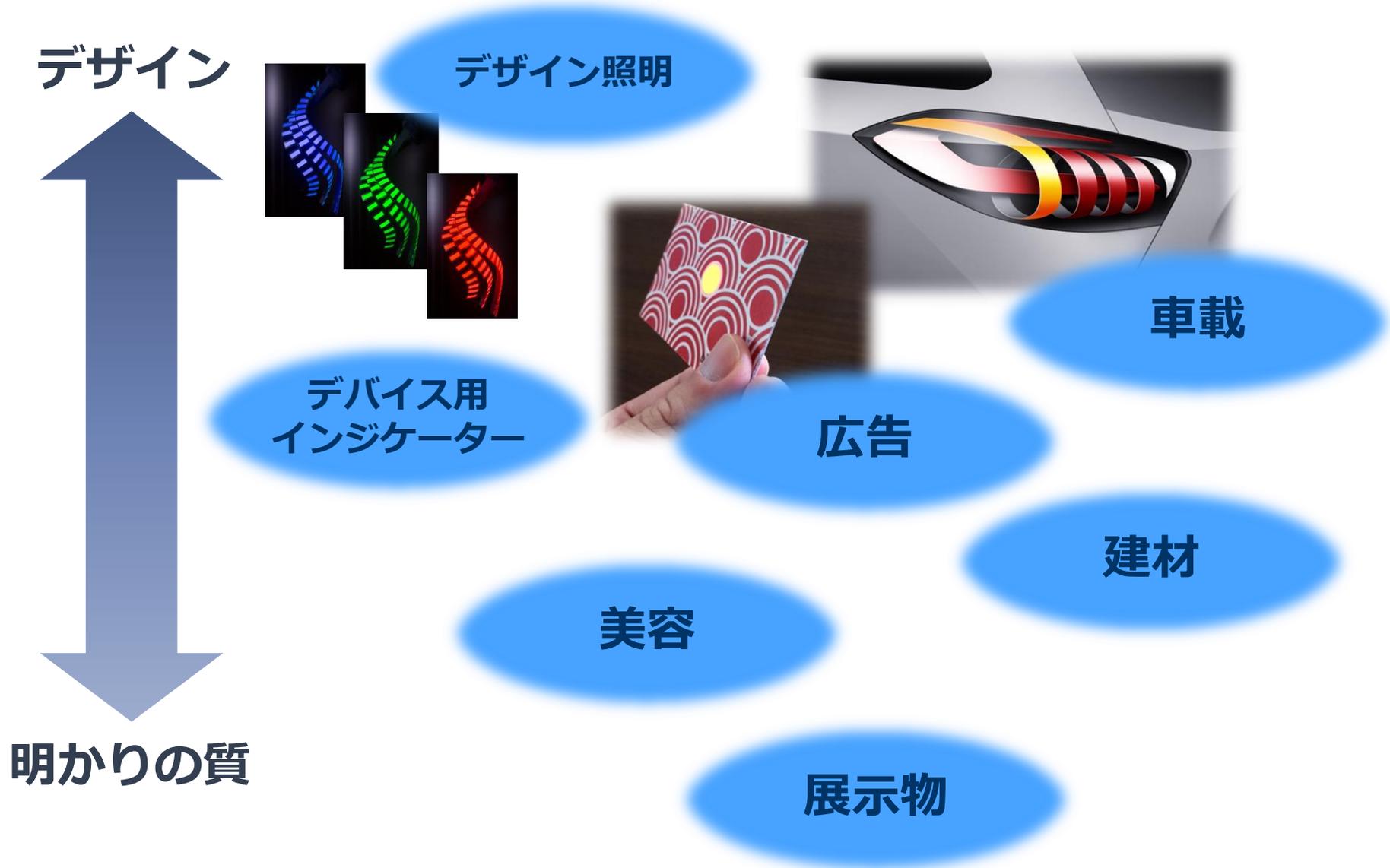


サイネージ



OLED
+ センサー

OLEDならではの 照明市場の創出



顕在化しつつある車載用照明の事業化の加速

有機EL照明ならではの新しい照明の利用シーン拡大

企業連合による強みの結集

コニカミノルタ

ロール・ツー・ロール方式の
フレキシブルパネルの製造装置
及び量産技術



パイオニア

有機ELパネル量産及び
市場導入実績、カーエレクトロ
ニクスOEMビジネスのノウハウ



概要

パイオニア株式会社と当社でOLED照明事業の企画、開発、販売機能を集約した合併会社設立の契約を締結。

会社名

コニカミノルタ パイオニア OLED 株式会社

所在地

東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング

設立

2017年5月 (予定)

資本金

490百万円

出資比率

コニカミノルタ (持ち分50%)
パイオニア (持ち分50%)

コニカミノルタ

「軽・薄・曲」のフレキシブル
OLED技術

業界最大級の量産設備（甲府工場）

課題解決型デジタルカンパニー
としての総合力

強み
実績

パイオニア

自動車市場における
豊富なビジネス実績

世界初のOLEDディスプレイ
を製品化

20年に及ぶ車載用を含む
OLED量産実績



フレキシブルOLED



当社甲府工場



自動車用テールランプ

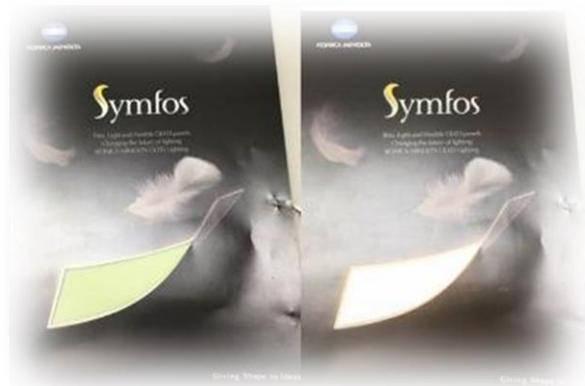
車載



市場規模見込み

500億円(2025年)

広告



市場規模見込み

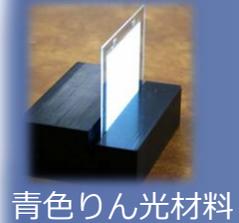
※高級グリーティングカード領域

500億円(2025年)

美容



有機EL照明の利用シーンの拡大



FY19
黒字化

中長期

売上高
250億円～



広告・インジケータ



サインージ



車載



バリアフィルム

ディスプレイ向け
有機EL素材

美容向け

有機EL技術の素材・部材への展開

Appendix

2016年度第3四半期 全社業績要約

【億円】

	16年度 3Q 累計	15年度 3Q 累計	前年 同期比	16年度 3Q	15年度 3Q	前年 同期比
売上高	6,996	7,623	- 8%	2,377	2,551	- 7%
売上総利益	3,391	3,669	- 8%	1,120	1,227	- 9%
(売上総利益率)	48.5%	48.1%	-	47.1%	48.1%	-
営業利益	345	416	- 17%	159	134	+ 19%
(営業利益率)	4.9%	5.5%	-	6.7%	5.2%	-
税引前利益	341	405	- 16%	166	132	+ 26%
(税引前利益率)	4.9%	5.3%	-	7.0%	5.2%	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	249	265	- 6%	117	92	+ 27%
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3.6%	3.5%	-	4.9%	3.6%	-
E P S (円)	50.27	53.32		23.54	18.49	
設備投資額	275	352		101	131	
減価償却費及び償却費	391	375		136	125	
研究開発費	535	568		173	187	
FCF	△ 97	△ 464		42	△ 60	
投融資	364	516		0	89	
為替レート [円] USD	106.63	121.70	△ 15.07	109.30	121.50	△ 12.20
euro	118.02	134.36	△ 16.34	117.78	132.95	△ 15.17

営業利益増減分析



KONICA MINOLTA

前年同期比較

(FY16/3Q累計 vs. FY15/3Q累計)

[要因]

	情報機器	ヘルスケア	産業用 材料・機器	合計 【億円】
為替影響	△ 158	△ 16	△ 5	△ 173
価格変動	△ 25	△ 7	△ 41	△ 73
数量増減他	179	31	△ 21	231
コストダウン	6	1	△ 3	5
経費増減	△ 108	△ 23	6	△ 147
その他 収益費用	△ 22	6	75	87

[営業利益]

増減額（前年同期比）	△ 128	△ 8	12	△ 71
------------	-------	-----	----	------

前年同期比較

(FY16/3Q vs. FY15/3Q)

[要因]

	情報機器	ヘルスケア	産業用 材料・機器	合計
為替影響	△ 57	△ 5	△ 1	△ 61
価格変動	△ 7	△ 2	△ 16	△ 25
数量増減他	28	3	1	45
コストダウン	9	0	3	12
経費増減	△ 19	△ 3	2	△ 27
その他 収益費用	△ 0	1	81	81

[営業利益]

増減額（前年同期比）	△ 46	△ 5	69	25
------------	------	-----	----	----

販売管理費・その他の収益・費用及び金融収支明細

【億円】

	16年度 3Q 累計	15年度 3Q 累計	前年 同期比	16年度 3Q	15年度 3Q	前年 同期比
販売管理費						
販売変動費	348	368	△ 20	111	120	△ 9
研究開発費	535	568	△ 33	173	187	△ 14
人件費	1,423	1,481	△ 58	475	503	△ 28
その他	800	810	△ 10	274	274	0
販売管理費 計	3,106	3,227	△ 121	1,034	1,085	△ 51
	*為替影響額：			△268億円 (除く為替 +147億円)		△78億円 (除く為替 +27億円)
その他の収益						
有形固定資産売却益	2	38	△ 37	0	5	△ 5
特許関連収入	78	-	78	78	-	78
その他収益	26	22	4	8	5	3
その他の収益 計	105	60	45	86	10	76
その他の費用						
有形固定資産除売却損	6	12	△ 6	2	1	1
退職特別加算金	2	25	△ 24	2	0	2
その他費用	37	49	△ 12	10	18	△ 7
その他の費用 計	45	86	△ 41	14	19	△ 5
金融収支						
受取利息・受取配当金-支払利息	△ 1	△ 1	0	0	0	0
為替差損益	1	△ 7	9	8	△ 2	10
その他	△ 2	△ 2	△ 0	△ 1	△ 0	△ 0
金融収支 計	△ 2	△ 11	9	8	△ 2	10

2016年度業績見通し 全社業績要約



KONICA MINOLTA

【億円】

	16年度 業績見通し	15年度 実績	前年 同期比
売上高	10,300	10,317	-0%
営業利益	550	601	-8%
(営業利益率)	5.3%	5.8%	
税引前利益	525	580	-10%
親会社の所有者に帰属する当期利益	360	320	+13%
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3.5%	3.1%	
EPS (円)	72.60	64.39	
ROE* (%)	7.2%	6.5%	
設備投資額	500	526	
減価償却費及び償却費	500	513	
研究開発費	750	763	
FCF (16年度予想は投融資を含めない)	390	△ 515	
*投融資(16年度の計画)	500	682	
為替レート [円] USD	110.00	120.14	
euro	115.00	132.58	

ROE : 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式の合計 (期首・期末平均)

2016年度業績見通し セグメント別売上高・営業利益

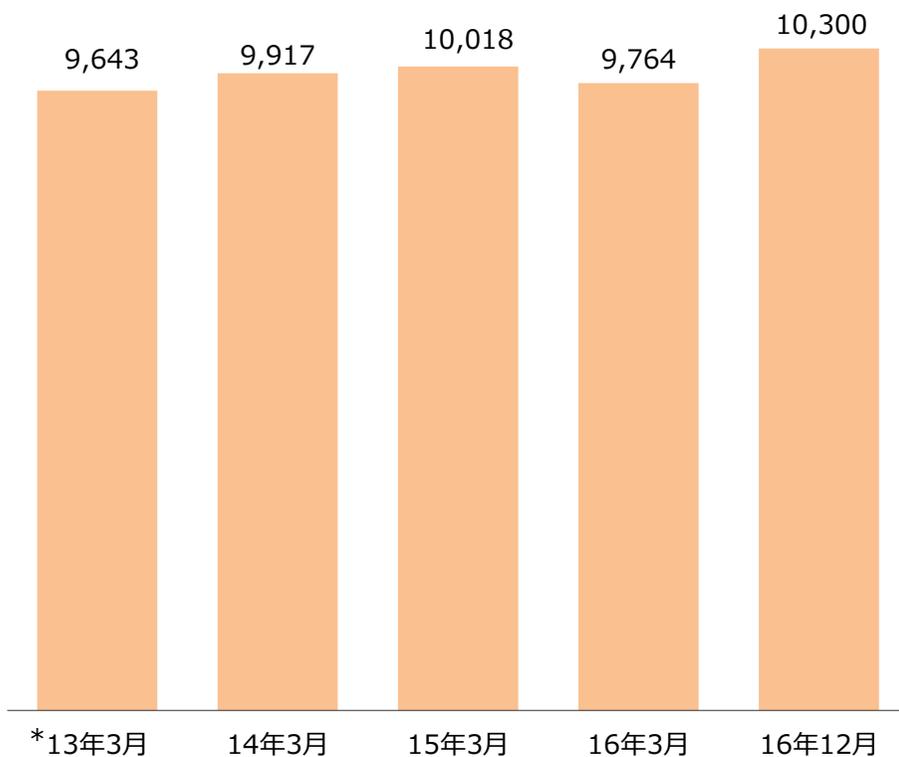
【億円】

売上高	16年度 業績見通し	15年度 実績	前年 同期比
情報機器	8,100	8,322	-3%
オフィスサービス	5,750	6,076	-5%
商業・産業印刷	2,350	2,246	5%
ヘルスケア	1,000	899	11%
産業用材料・機器	1,150	1,060	8%
産業用光学システム	580	525	10%
機能材料	570	535	7%
コーポレート他	50	37	-
グループ全体	10,300	10,317	0%

営業利益（右側：営業利益率）	16年度 業績見通し		15年度 実績		前年 同期比
情報機器	620	7.7%	702	8.4%	-12%
オフィスサービス	445	7.7%	542	8.9%	-18%
商業・産業印刷	175	7.4%	160	7.1%	9%
ヘルスケア	50	5.0%	39	4.3%	28%
産業用材料・機器	170	14.8%	170	16.1%	0%
コーポレート他	△290		△311		-
グループ全体	550	5.3%	601	5.8%	-8%

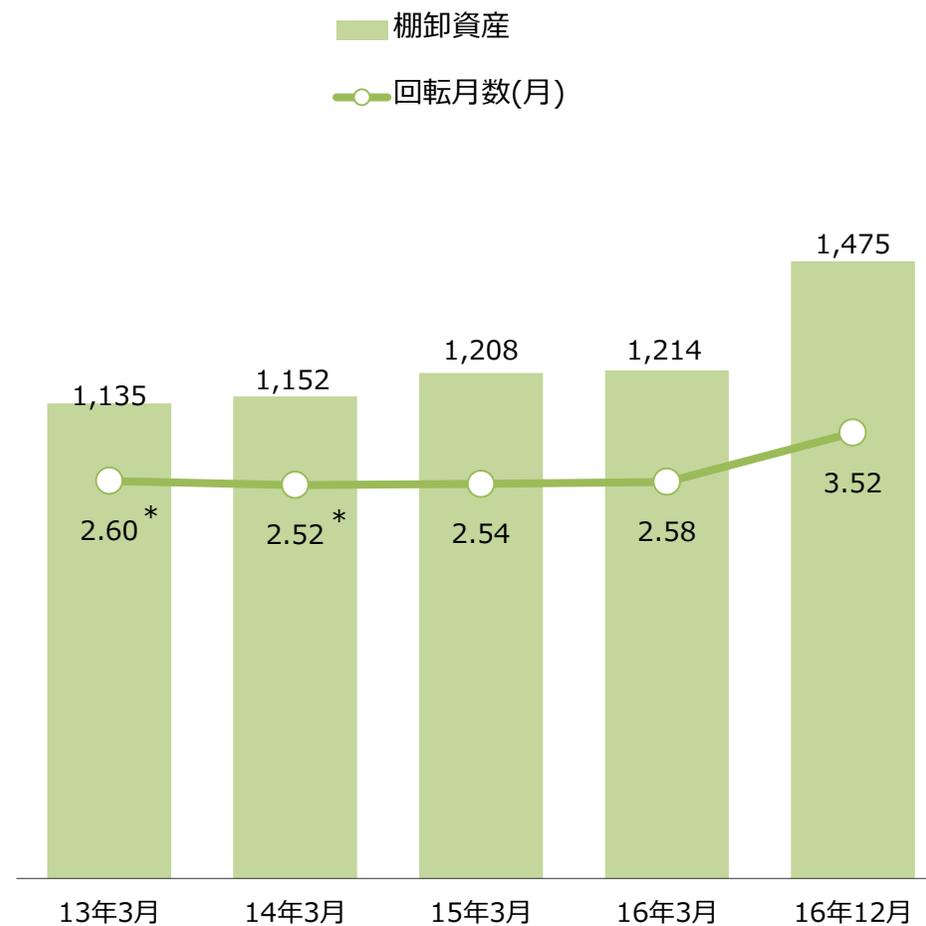
資産合計（総資産）

【億円】



棚卸資産・回転月数

【億円】

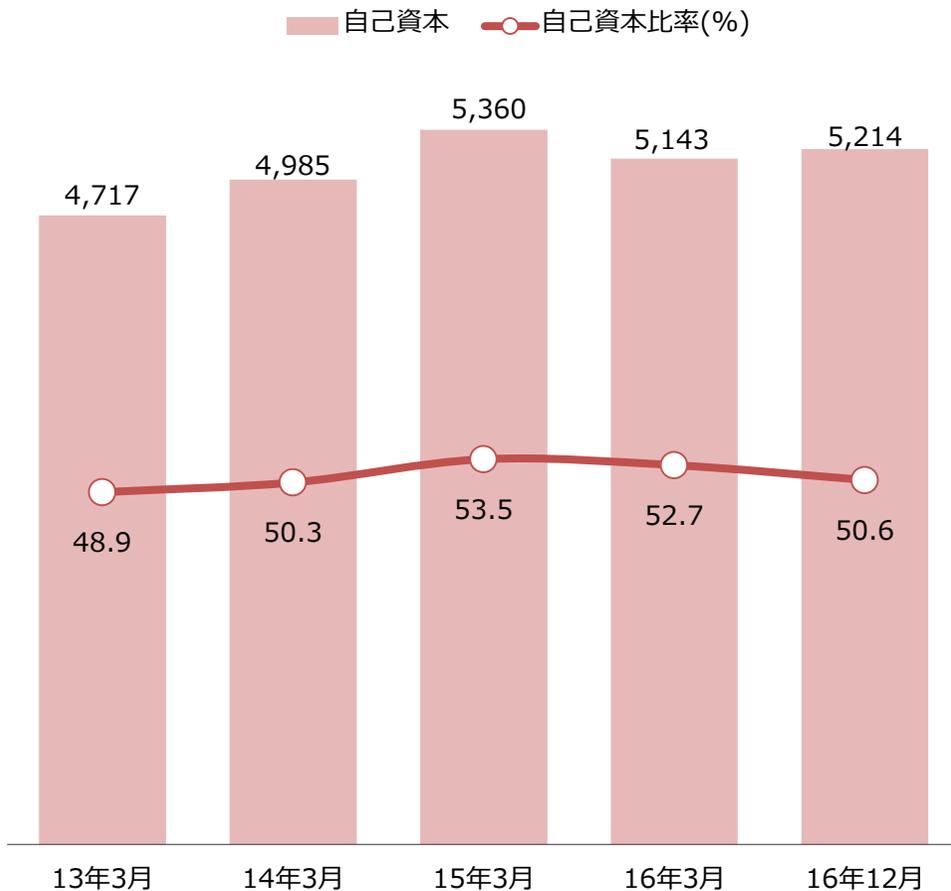


* 13年3月=13年4月1日

* 棚卸資産回転月数 = (当期末棚卸資産残高) / (直近3カ月の平均売上原価)
 * 13年3月/14年3月の回転月は日本会計基準

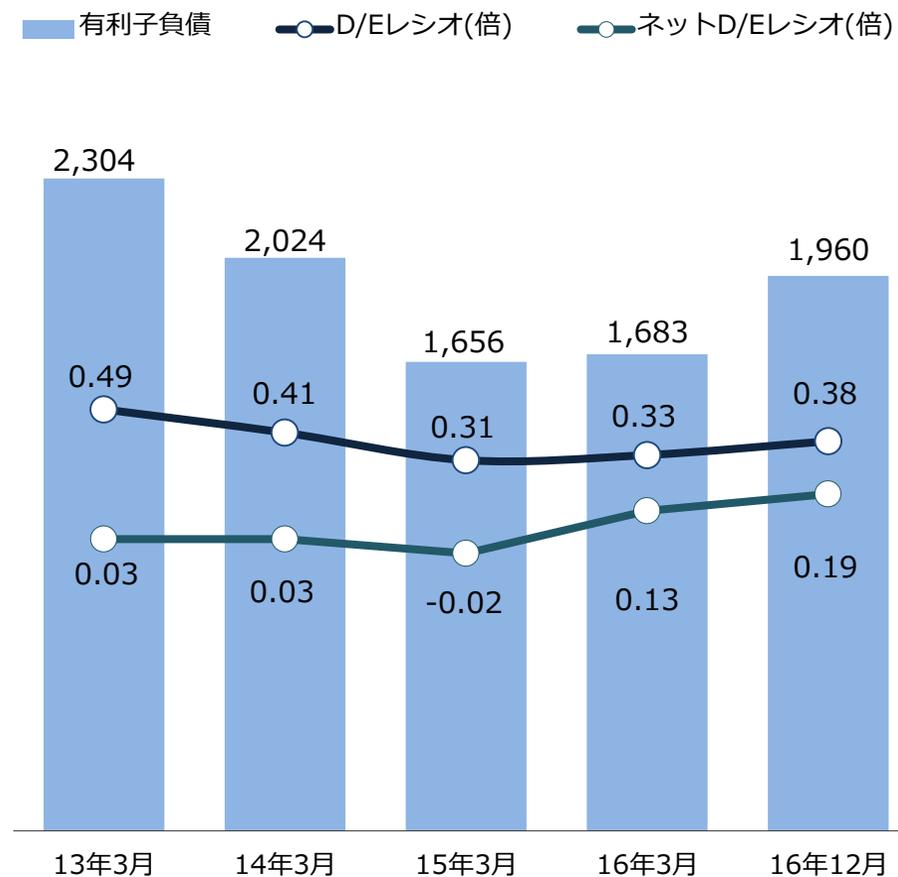
自己資本・自己資本比率

【億円】



有利子負債・D/Eレシオ

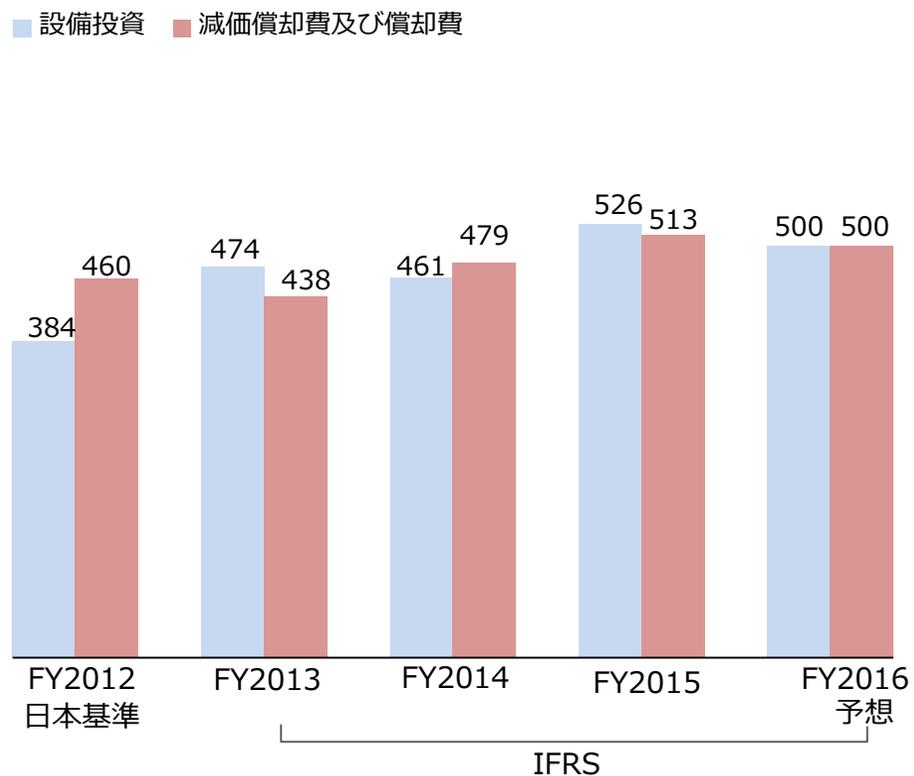
【億円】



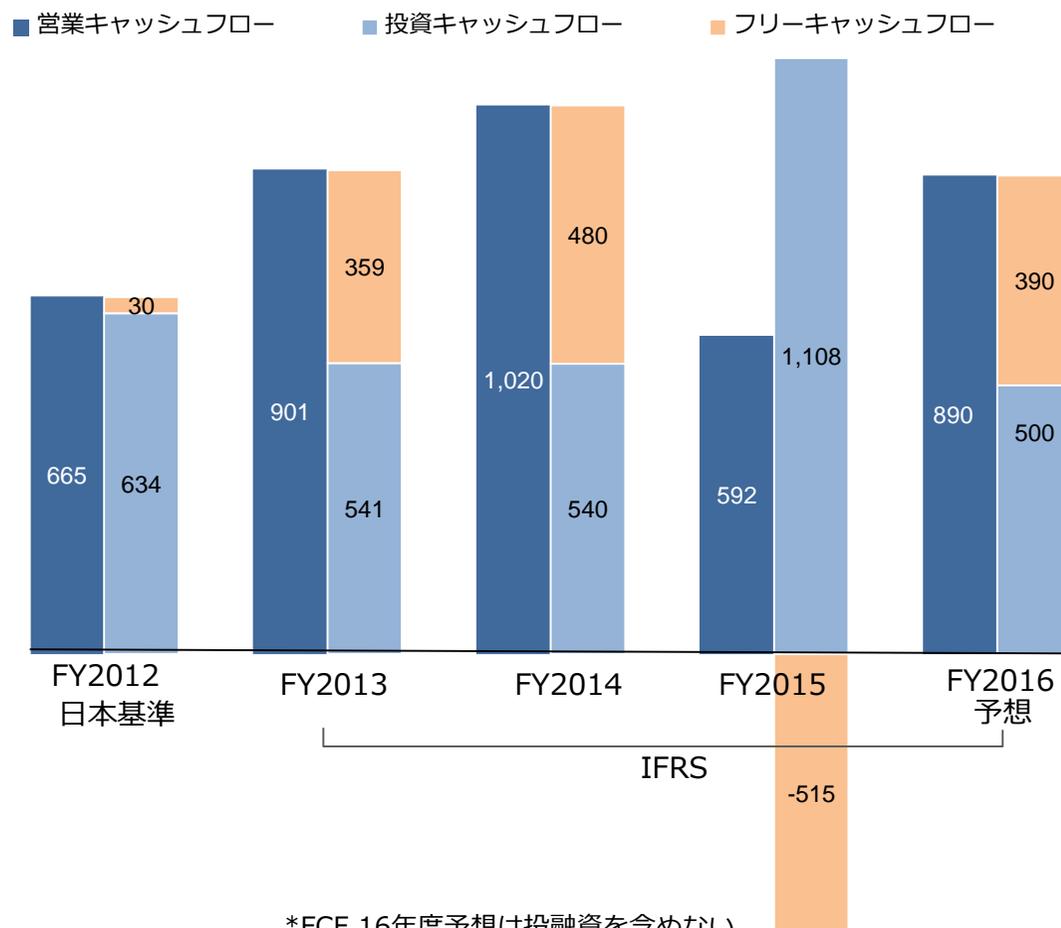
自己資本=親会社の所有者に帰属する持分 自己資本比率=親会社の所有者に帰属する持分/総資本

* 13年3月=13年4月1日

設備投資・減価償却費及び償却費 【億円】



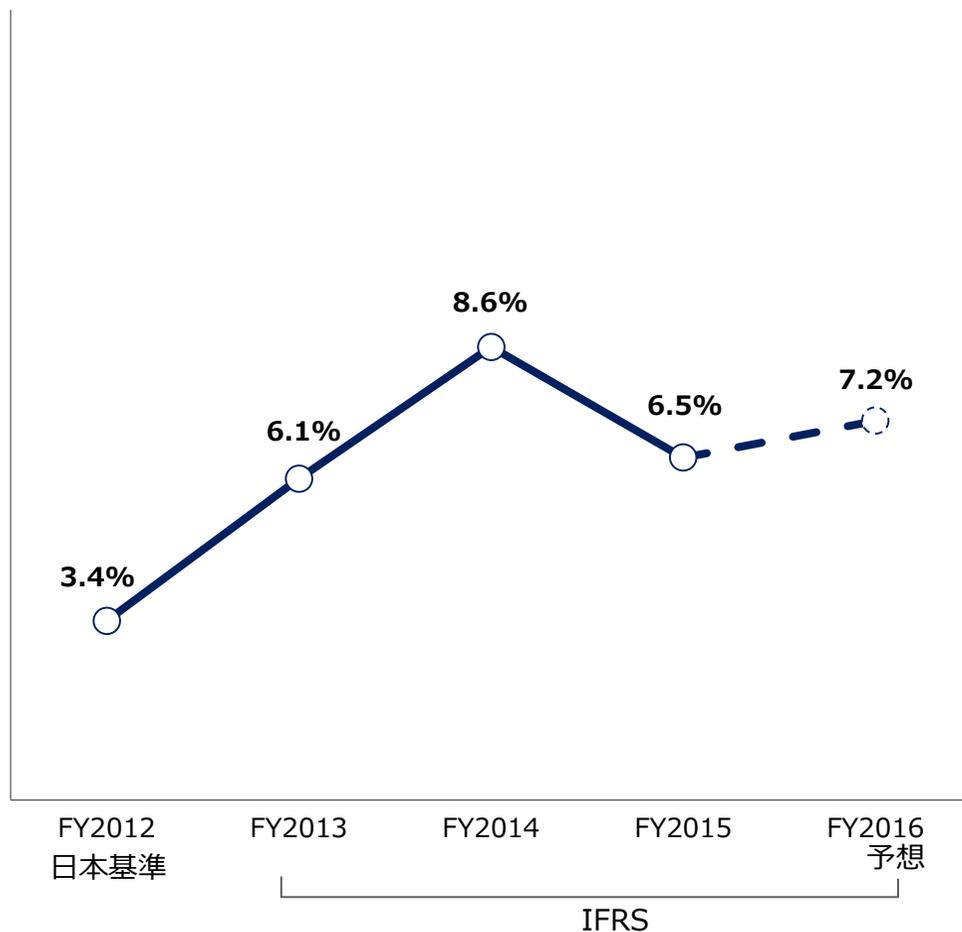
フリーキャッシュフロー 【億円】



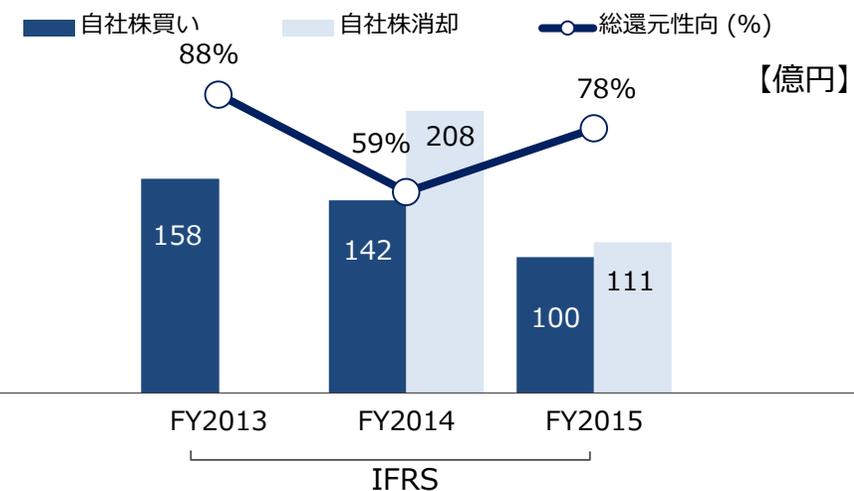
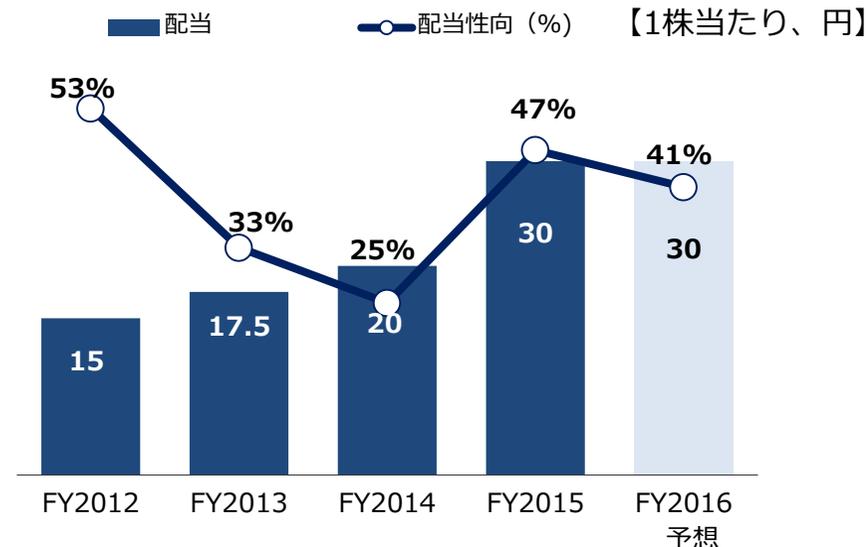
*FCF 16年度予想は投融資を含めない

ROE

ROE：親会社の所有者に帰属する当期利益／資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式の合計（期首・期末平均）

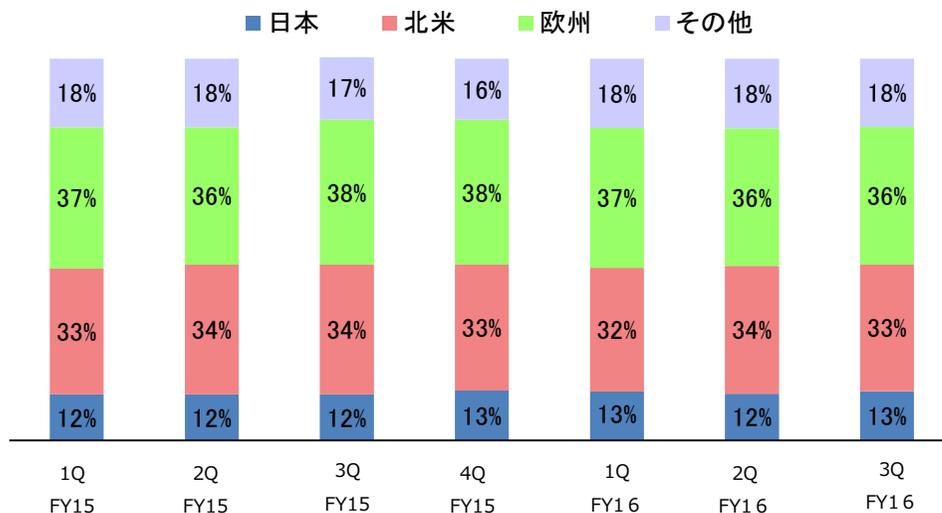


配当・配当性向・自社株買い

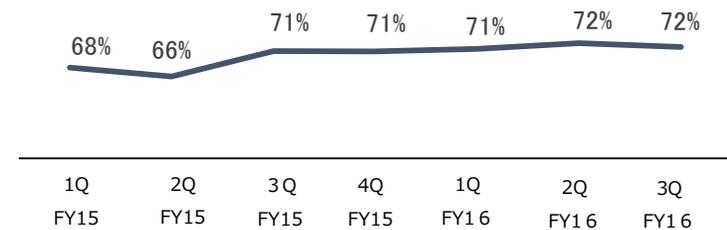


情報機器事業：販売状況（四半期推移）

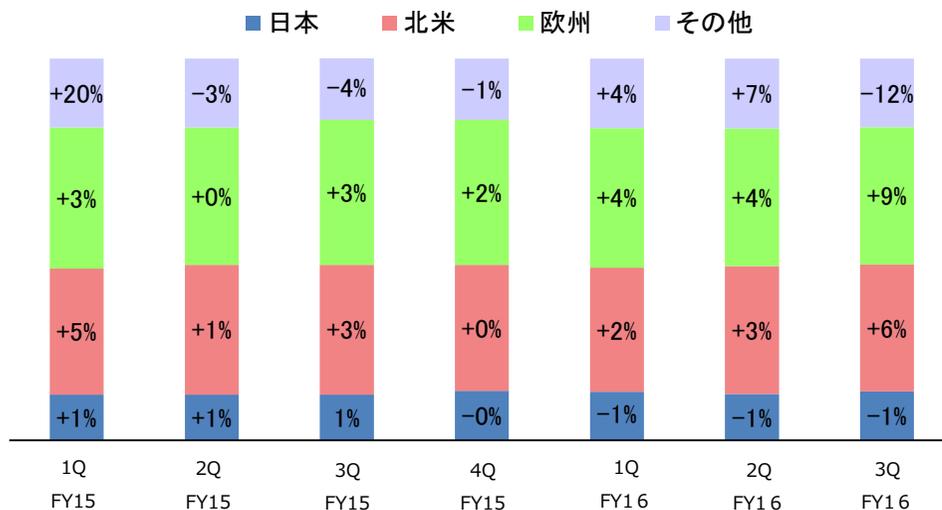
■ 地域別売上高構成比（円貨ベース）



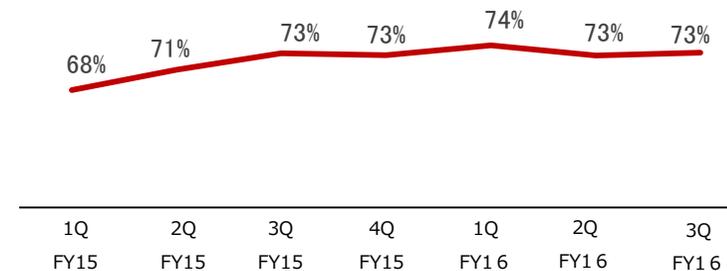
■ ハード売上に占めるカラー比率（オフィス）



■ 地域別売上高増減（為替除く）



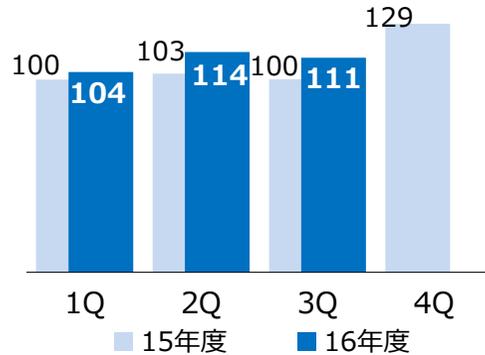
■ ハード売上に占めるカラー比率（PP）



情報機器事業：主要製品販売状況（四半期推移）

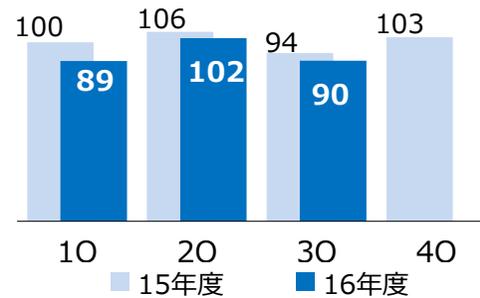
■ A3カラーMFP 販売台数*

YoY : +11% QoQ : △3%



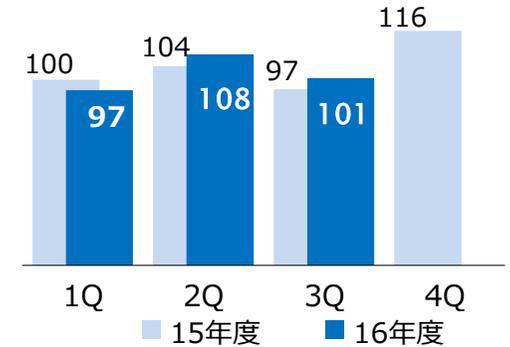
■ A3モノクロMFP販売台数

YoY : △4% QoQ : △12%



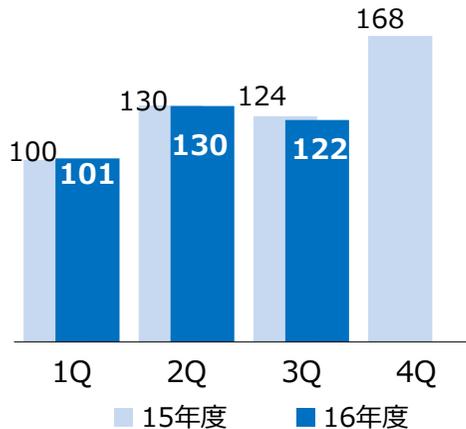
■ A3MFPトータル 販売台数*

YoY : +4% QoQ : △7%



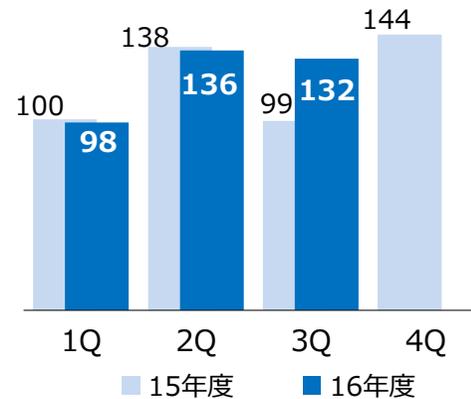
■ カラープロダクションプリント 販売台数*

YoY : △2% QoQ : △6%



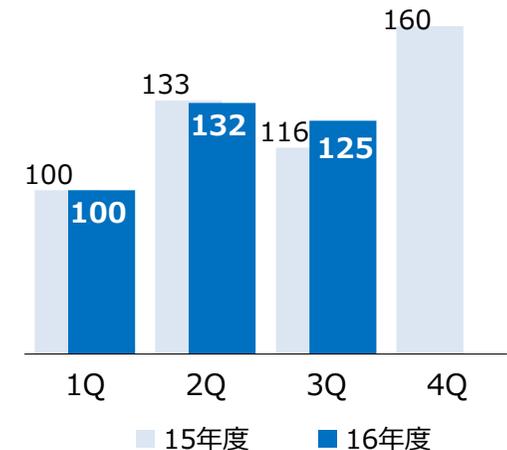
■ モノクロプロダクションプリント販売台数

YoY : +33% QoQ : △3%



■ プロダクションプリント トータル販売台数

YoY : +8% QoQ : △5%



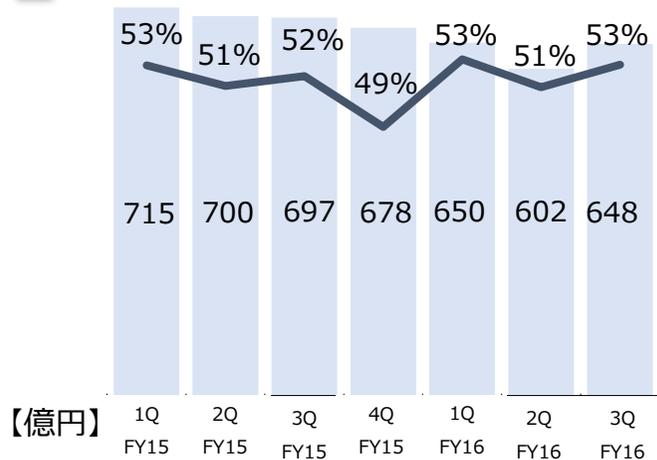


ノンハード売上高・ノンハード比率

ノンハード売上高前年伸長率

(為替影響除く)

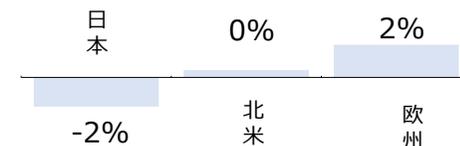
オフィスプロダクト



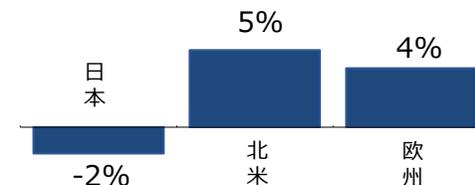
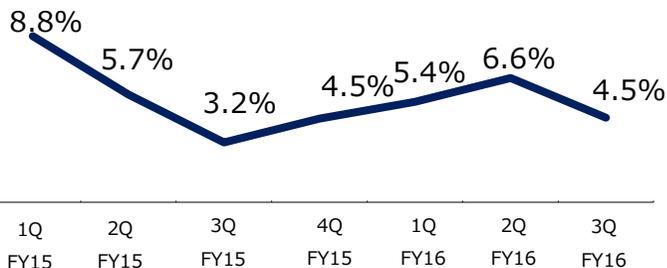
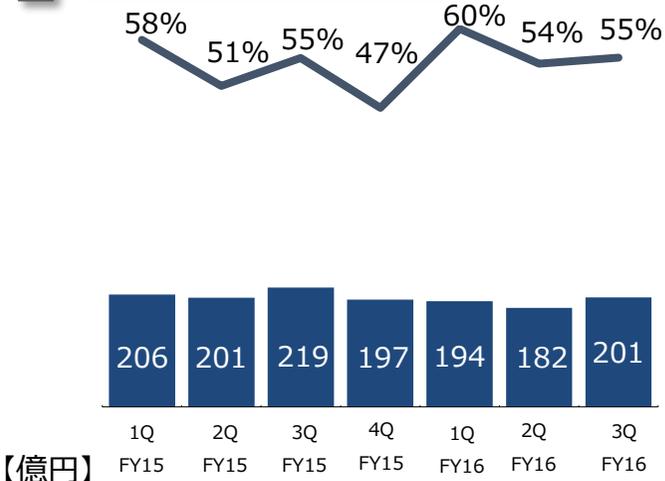
【対前年同期】



【地域別】



プロダクションプリント



主な通貨の為替レートと収益影響度



KONICA MINOLTA

(為替レート：円)

	15年度 3Q	16年度 3Q	対前年影響額		15年度 3Q (累計)	16年度 3Q (累計)	対前年影響額		為替感応度*2	
			売上高 (億円)	営業利益 (億円)			売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 (億円)	営業利益 (億円)
米ドル	121.50	109.30	△ 92	+ 3	121.70	106.63	△ 331	+ 9	+ 30	△ 0
ユーロ	132.95	117.78	△ 65	△ 55	134.36	118.02	△ 203	△ 148	+ 18	+ 9
ポンド	184.42	135.82	△ 41	△ 0	186.65	141.86	△ 116	△ 5	+ 4	+ 1
欧州通貨*1	-	-	△ 122	△ 56	-	-	△ 369	△ 155	+ 26	+ 12
人民元	18.92	15.97	△ 19	△ 5	19.26	15.95	△ 63	△ 9	+ 25	+ 3
豪ドル	87.42	81.92	△ 5	△ 1	90.18	80.02	△ 31	△ 7	+ 4	+ 1
その他通貨	-	-	△ 10	△ 2	-	-	△ 49	△ 11	-	-
対前年影響額 合計			売上高: 営業利益:	△ 249 △ 61			売上高: 営業利益:	△ 843 △ 173		

*1欧州通貨：ユーロ/ポンド以外の欧州通貨も含む

*2為替感応度：1円変動時の影響額（年間）

2016年度第3四半期 セグメント別為替影響度

【億円】

		売上高				営業利益			
		1Q	2Q	3Q	9ヵ月累計	1Q	2Q	3Q	9ヵ月累計
情報機器	実績	1,863	1,843	1,916	5,622	133	128	120	381
	前年比	△ 155	△ 231	△ 153	△ 539	1	△ 83	△ 46	△ 128
	為替影響	△ 215	△ 323	△ 225	△ 764	△ 29	△ 72	△ 57	△ 158
	除く為替	+ 61	+ 91	+ 73	+ 225	+ 29	△ 11	+ 11	+ 30
ヘルスケア	実績	185	229	220	634	2	10	3	15
	前年比	6	6	△ 0	11	1	△ 3	△ 5	△ 8
	為替影響	△ 13	△ 20	△ 14	△ 47	△ 4	△ 7	△ 5	△ 16
	除く為替	+ 19	+ 26	+ 14	+ 59	+ 5	+ 4	△ 0	+ 8
産業用材料・機器	実績	217	224	214	655	23	24	97	144
	前年比	△ 65	△ 56	△ 41	△ 162	△ 35	△ 22	69	12
	為替影響	△ 9	△ 13	△ 10	△ 32	△ 3	△ 1	△ 1	△ 5
	除く為替	△ 55	△ 43	△ 32	△ 130	△ 33	△ 21	+ 70	+ 16

OPS: Optimized Print Services (情報機器事業-オフィスサービス分野)

当社のマネージド・プリント・サービス (MPS) の呼び名。お客様のプリント環境 (出力・文書管理の環境) を最適化することで、コスト削減と効率性の向上を図るサービスを提供。

GMA: Global Major Account (情報機器事業)

世界的規模の大手企業顧客 (向けビジネス) のことをいう。

MPM: Marketing Production Management (情報機器事業-商業・産業印刷分野)

ブランドオーナーが製作する販促物のデザインから、印刷、発送、在庫管理までのサプライチェーンの最適化を目指すサービス。Charterhouse (英) を2012/12に買収。

DR: Digital Radiography (ヘルスケア事業)

デジタルレントゲン、デジタルX線ともいう。レントゲン撮影時に人体を透過したX線の強度分布を検出しこれをデジタル信号に変換してコンピューターによる処理を加えてデータ化する手法またはそのためのシステム。

PACS: Picture Archiving and Communication System (ヘルスケア事業)

医療画像処理における画像保存通信システムのこと。DRやCR等のX線写真やCT、MRIなど大量の画像を管理するシステムの総称。

ZeroTAC: (産業用材料・機器事業-機能材料分野)

位相差をゼロにしたTACフィルム。IPS型ディスプレイに主に使われ、視認性を上げる特徴を持つ。

OLED: Organic Light Emitting Diode (産業用材料・機器事業-パフォーマンスマテリアル)

有機EL (有機エレクトロルミネッセンス) ともいう。電圧をかけると有機物が光る現象を使って照明やディスプレイ製品などに応用されている。



KONICA MINOLTA